

子どものケガの回復を見守る 「SCHOOL HEALTH SCALE[®]」

はじめに

部活動でケガをした生徒が診察を受けた後、部活動の顧問や保護者、養護教諭、体育科教員や部員がその情報を共有できるようにするにはどうしたらいいか。このような課題を解決するために、健康管理ツール「SCHOOL HEALTH SCALE[®]」（以下、SHS）を開発しました。本稿では、開発者の一人として関わった SHS 開発の経緯や使い方についてご紹介いたします。

SHS の開発経緯

養護教諭や保健体育科の教員として、また顧問を経験して生徒に接している現在、「お医者さんの話が理解できない」「顧問の先生にケガの報告がうまくできない」と言う生徒や、「ケガの状態を監督に理解してもらえない」といった保護者の話をよく耳にします。

また、ケガをしているのに無理をする生徒やケガをきっかけに退部してしまった生徒を見てきて、情報共有（コミュニケーション）不足が背景にあると感じました。そして、医師に聞いてほしいことを生徒がきちんと聞き、それを顧問や保護者、養護教諭や部員に報告できるようになる仕組みが必要だと考えました。

そこで、生徒自身が把握する必要があり、周りの人たちも知りたいと思っている、「ケガの状態（診断名）」「試合復帰が可能な時期」「回復までにはいけないこと」「自分でできるリハビリメニュー」が一目でわかり、ケガの状態をレベル1～6の6段階で表した、生徒自身が自分で記入するツールの SHS を開発しました。

SHS の使い方

- ①生徒は受傷後、病院に行く前に「基本情報」「ケガ情報」を記入します。
- ②ケガの状態のレベルの「自分の評価」欄に受診日を記入し、病院に持参して医師に伝えます。

例えば、7月2日に診察を受ける場合、ケガが「痛みや炎症があり全く動かすことができない状態」なら、レベル1の「自分の評価」に「7/2」と書きます。

③医師による診察・診断を受け、生徒は「①診断名（負傷名）」「②試合復帰までの目安」「③医療機関の評価」を記入します。

医師が診断したケガの状態のレベルの「③医療機関の評価」欄には受診日の「7/2」と記入します。

④生徒は医師に「④やってはいけないこと」や「⑤自分でできるリハビリメニュー」を聞き、受診日を記入した「③医療機関の評価」欄の下のスペースに書きます。

部活動を見学しながらでもできること、やってはいけないこと以外でできるリハビリメニューに取り組むことで、生徒はチームから離脱せずに済みます。

⑤再診時も、自分のケガの状態のレベルの「自分の評価」欄に受診日を記入しておき、診断を受けたら「③医療機関の評価」欄に受診日を記入します。

前回の診察時より状態が回復したことや、ゴールの「6」や「+α」に近づいていることを自覚でき、周囲の人たちは本人の復帰までの状態を把握できます。

また、可能であれば、整形外科や治療院等で、自分のリハビリメニューのお手本を撮影させてもらいます。写真があれば、リハビリの内容を再確認でき、家や学校で再現しやすくなります。

おわりに

SCHOOL HEALTH SCALE [®] ケガの回復を測るための学校生活評価表		学年	クラス	番号	いつ	月	日	時間	単身・部活・その他()	
基本情報		名前	ケガ情報			どこで	何をしていました			
		部活動	ケガをした時の状況と経過							
		復帰したい日	どうしたら進む			診断名(負傷名)	①	試合復帰までの目安	②	日
		復帰したい日	復帰したい日							
レベル	1	2	3	4	5	6	+α			
活動の目安	※日常生活に支障なく		※日常生活に支障なく(日常生活に支障なく)		※スポーツの動きに支障なく		※日常生活に支障なく(日常生活に支障なく)		※日常生活に支障なく(日常生活に支障なく)	
自分の評価	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
医療機関の評価	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
メモ	<p>④ やってはいけないこと</p> <p>⑤ 自分でできるリハビリメニュー</p>									

SHSは東山書房のホームページからダウンロードサービスで提供いたします。詳しくは東山書房のホームページのTOPICSをご参照ください。

(構成：編集部)



金澤良 (かなざわ・りょう)

2003年度から岩倉高等学校(東京都)で、保健体育科教諭兼養護教諭の専任教諭として勤務している。保健体育科の立場から部活動顧問や担任、授業や学校行事の総括などに携わりつつ、養護教諭として保健室経営を行ってきた。特進コースの総合的な探究の時間では、オリジナルでスポーツ科学の授業を担当している。